

## 令和5年緑化推進運動功労者

[個人]・・・1名

たなか まさはる  
田中 政晴

(香川県さぬき市)

[団体]・・・12団体

かんぼつ きつぽろ  
間伐ボランティア「札幌ウッドィーズ」

(北海道札幌市)

すみたちょうりつありすちゅうがっこう  
住田町立有住中学校

(岩手県気仙郡住田町)

いちのへみなみしょうがっこう ごしょの あいごしょうねんだん  
一戸南小学校 御所野愛護少年団

(岩手県二戸郡一戸町)

とくていひえいりかつどうほうじん みらいききん  
特定非営利活動法人 わたらせ未来基金

(栃木県小山市)

あらかわ  
荒川グリーングリーン

(埼玉県大里郡寄居町)

ながおかしりつやまもとちゅうがっこう  
長岡市立山本中学校

(新潟県長岡市)

ふじつうかぶしきがいしゃ ぬまづこうじょう  
富士通株式会社 沼津工場

(静岡県沼津市)

あいちようすいとちかいりょうく  
愛知用土地改良区

(愛知県大府市)

とくていひえいりかつどうほうじん たはらな はな  
特定非営利活動法人 田原菜の花エコネットワーク

(愛知県田原市)

なはりちょうりつなはりちゅうがっこう  
奈半利町立奈半利中学校

(高知県安芸郡奈半利町)

おおむたせいぶつあいこうかい  
大牟田生物愛好会

(福岡県大牟田市)

くまもとしりつよしのしょうがっこう  
熊本市立芳野小学校

(熊本県熊本市)

[個人]

---

たなか まさはる  
田中 政晴

---

香川県さぬき市

---

<功績の概要>

同氏は、教師の職を退いた後、昭和 60 年から専門林家として 35ha の所有林の経営を行い、スギやヒノキの優良材の生産に取り組むとともに、大川町林業研究会（現さぬき市林業研究会）を設立するなど、地域の森林づくりに幅広く貢献してきた。

所有林においては、優良大径材の生産を念頭に、100 年生以上の森林づくりや生態系に配慮した自然災害に強い山づくりを目指し、施業を行っている。特に、80 年生以上の森林においては文化財の修復に使用できる木材となるよう管理を行ってきた。また、民有林では事例の少なかった列状間伐の試行や、研究機関と連携した精英樹の試験林の整備・調査など、新しい試みにも積極的に取り組んできた。

さらに、長年にわたり香川県林業経営者協会の会長や全国林業普及協会の理事を務め、林業技術や林業経営の普及啓発に尽力するとともに、自ら立ち上げた林業研究会においては、「暮らしにつながる施業」をテーマに低コスト林業の研究に取り組んできた。平成 20 年からは、市有林における「さぬき市民百年の森づくり」活動を牽引し、新たに整備した展示林等で研修会を行うとともに、一般市民を対象とした間伐体験会や「森林の<sup>もり</sup>楽校<sup>がっこう</sup>」等のイベントを開催してきた。林業従事者のみならず、広く市民に森林の大切さについて普及啓発を行ってきた功績は多大である。

[団 体]

---

かんばつ 間伐ボランティア「札幌ウツディーズ」  
さっぽろ

---

所在地 北海道札幌市  
代表者 会長 富士本 充佐

---

<功績の概要>

同団体は、札幌市やその近郊を中心に、手入れが遅れている森林を市民の力で蘇らせることを目的に、所有者から依頼を受けた森林において、森林づくり活動を精力的に行っている。

平成 13 年の設立以来、延べ 180 か所以上の森林において、植樹や下刈り、除間伐等、600 回を超える森林整備活動をボランティアで実施し、地域の森林の保全と再生に尽力してきた。目指す森林の姿を所有者に提案しながら整備を行い、豊かな森林を次代に引き継ぐ活動を続けている。

この他に、自治体や他の森林ボランティア団体とも積極的に連携しながら活動し、台風の風倒被害地における倒木の整理や植樹、防風林の保全等を行い、森林の持つ公益的機能の維持・増進に貢献してきた。

一般市民が楽しく安心して森林づくりに参加できるよう、安全最優先を旨とした森林づくり活動を目標に掲げ、技術の普及・向上に努めるとともに、ホームページ等を通じた情報発信や、市民との交流イベントへの参加、発表会での事例報告等の積極的な広報を通じて、森林づくりや森林ボランティア活動への理解醸成に多大なる貢献を果たしている。

[団 体]

---

すみたちょうりつありすちゅうがっこう  
住田町立有住中学校

---

所在地 岩手県気仙郡住田町  
代表者 校長 村松 正博

---

<功績の概要>

同校は、「森林・林業日本一のまちづくり」を掲げる住田町において、青少年の林業に対する理解を深め、地域に根ざした森林環境教育の充実を図るため、様々な取組を行っている。

昭和 57 年には、同校に隣接する山林に地域住民と生徒の手でスギを植栽し、「有住中学校モデル学校林」として整備し、以降、専門家の指導のもと、生徒自身の下刈りや除伐、間伐等の作業を行ってきた。学校林での作業は、青少年が林業の現状と課題を考える機会を創出し、同校の森林・林業に関する教育において中心となる役割を果たしている。

また、平成 22 年からは、中学校課程 3 年間を通じた森林環境教育を実施している。全生徒が、1 年次には地域の山の散策等の体験活動を通じて森林の多面的機能を、2 年次には間伐体験等を通じて林業の基礎知識や課題を、3 年次には木工団地の見学等を通じて木材産業を学ぶなど、青少年の森林・林業に対する理解醸成に貢献してきた。

これらの取組は、地元ボランティア、森林組合、町役場等地域の多様な主体と連携・交流しながら行われており、同校の地域に根ざした森林環境教育の実施は、生徒のみならず、地域全体の緑化意識の高揚に貢献している。

[団 体]

---

いちのへみなみしょうがっこう 一戸南小学校      ごしよのあいごしょうねんだん 御所野愛護少年団

---

所在地 岩手県二戸郡一戸町  
代表者 団長 関上 颯汰

---

< 功績の概要 >

同団は、令和3年に世界遺産に登録された縄文時代の遺跡「御所野遺跡」を守り育てていくために、一戸町立一戸南小学校において平成11年に結成された。

御所野遺跡を中心とした地域において、年2回の清掃等の環境美化活動を行うほか、縄文時代の環境を創る活動として、地域の博物館と連携して、縄文遺跡公園で集めたドングリを学校で苗まで育て、公園内の「縄文の森」に植樹する「縄文里山づくり」に取り組み、美しい風景と多様な生物が共生できる環境づくりに貢献してきた。

また、「『自然と共生した縄文人』の生き方から学ぶ」という観点で、各学年に合わせたテーマを設け、博物館学芸員による講義や現地での調査・実証実験等により、自然と人との関わり合いに関する調査研究活動を推進している。

このような清掃活動や植樹活動、調査研究活動の成果をもとに、児童自らがパンフレットの作成や、遺跡のガイド、調査成果発表会等を行い、御所野遺跡の魅力発信を通じて地域内外の者の緑化意識の醸成に貢献している。

とくていひえいりかつどうほうじん みらいきぎん  
特定非営利活動法人わたらせ未来基金

---

所 在 地 栃木県小山市  
代 表 者 理事長 青木 あおき 章彦 あきひこ

---

<功績の概要>

同団体は、ラムサール条約に登録された渡良瀬遊水地を保全・再生させ、自然と調和した持続可能な社会システムを構築することを目的として、平成13年に設立し活動してきた。

渡良瀬遊水地においては、湿原やヨシ原を保全するために市民や学校、企業、行政と連携しながら外来種であるセイタカアワダチソウ等の除去活動を行うほか、ヨシ刈り等の湿地保全作業を継続的に行っている。このような保全活動は地域住民の交流を促すだけでなく、遊水地を中心とした自然再生のための広域的連携を促進するとともに、生物多様性保全への理解醸成に貢献している。

また、上流の足尾山地においては、地域の団体等と連携しながら、土作りや植樹、シカ食害の防止対策等に取り組み、緑化推進に貢献してきた。足尾地域のドングリを遊水地で苗に育て、足尾山地に植樹する活動を行っており、こうした取組は地域住民の緑化意識の高揚にも寄与している。

さらに、自治体や地域の学校等と連携して、渡良瀬遊水地の自然環境を学ぶ観察ツアーや小中学生を対象とした生物調査会等を行い、自然環境の保全に対する意識の醸成を促進している。

あらかわ  
荒川グリーングリーン

---

所在地 埼玉県大里郡寄居町  
代表者 代表 町田 昌之

---

<功績の概要>

同団体は、かつて県内有数の桜の名勝地であった寄居町を、再び桜の名所として復活させたいとの思いから、「300 品種一万本・一年中桜に出会える町よりい」を目指して平成 19 年に発足した。以来、地域の住民や企業と連携しながら町内各所に 145 品種、累計約 5,500 本の桜を植樹してきた。

毎月 2 回の活動日を設け、桜の植樹や、挿し木等による育苗、下刈り等の維持管理を継続しており、地域の緑化に貢献している。また、植栽した桜の種類と場所を示した桜マップの作成等、PR 活動も積極的に行ってきた。

平成 25 年には、地区の里山を「寺山さくら農園」として整備し、町民 100 人が参加する植樹祭を 2 年間にわたり実施するとともに、平成 27 年からは花見会を催すなど、桜の名所をつくりながら地域住民が緑と親しむ機会を提供している。

さらに、平成 27 年には、東日本大震災で津波の被害を受けた福島県いわき市で開催された「復興さくらの会第 1 回記念植樹」に参加し、塩害に強い桜を寄贈したほか、同市からの視察研修を受け入れるなど、全国の様々な団体とも交流を図りながら活動している。

このような多岐にわたる活動について、SNS 等のメディアも活用しながら積極的に発信し、桜を通じて広く緑化意識の醸成に貢献している。

---

ながおかしりつやまもとちゅうがっこう  
長岡市立山本中学校

---

所在地 新潟県長岡市  
代表者 校長 高橋 龍雄

---

<功績の概要>

同校は、昭和62年に学校花壇が整備されたことを契機に、「花と対話する山中生」を合言葉に緑化活動に取り組んできた。学年を超えて生徒が一丸となり、地域の緑化イベントへの参加や福祉施設等への花苗の配布を積極的に行い、地域と一体となって様々な緑化活動を展開している。

学校花壇においては、「山本中学校花いっぱいプロジェクト」として、生徒自らが毎年の花活動のテーマや花壇のデザインを考え、土づくりや植栽、日々の水やりや手入れを、生徒会が中心となって実施している。

また学校外でも、近隣の福祉施設等に花を携えて訪問するなど、積極的に交流を図り、花を通じて地域に貢献している。平成16年に地域が水害・地震に見舞われた際には、生徒が住民を元気づけるため花を寄せ植えしたプランターを配布した。このことはその後、地域のコミュニティセンター等と連携した緑化イベント「花いっぱいフェスティバル」の開催へと発展した。

令和3年からは、SDGsの観点から、プラスチック製品に頼らず、生徒が新聞紙から作成したポットに花苗を入れて地域住民へプレゼントするなど、環境問題への関心・理解を深めながら緑化活動を進化させている。



[団 体]

---

ふじつうかぶしきがいしゃ    ぬまづこうじょう  
富士通株式会社    沼津工場

---

所在地    静岡県沼津市  
代表者    代表取締役社長 時田 隆仁

---

<功績の概要>

同工場は、昭和51年の創業時より「緑あふれるインダストリアルパーク」を目指して、自然との調和が図れるよう、桜並木の整備等工場の緑化を進めてきた。敷地内には、樹林地や茶畑などの多様な緑地があり、その大部分を開放し、地域に憩いの場を提供している。

樹林地では、自然の状態を活かしながら、遊歩道への安全柵の設置や間伐材チップを撒くなどの安全への配慮を行うとともに、従業員や地域住民向けにお茶畑を活用した茶摘みフェスティバルやタケノコ掘り、遊歩道での自然体験ウォーキング等の季節毎のイベントを開催し、緑地を活用して多くの地域交流を実践している。

また、ヤギの放牧による除草や工場壁面へのアサガオを活用したグリーンカーテンの設置により、環境保全活動やCO<sub>2</sub>排出削減につながる活動にも取り組んでいる。近年では多様な生物が生息できる工場緑地の形成に向けて、池や小川からなる「いこいの里・ビオトープ」を整備し、絶滅危惧種であるミナミメダカの育成等に積極的に取り組み、小学校の環境学習の場としても提供するなど、環境保全や緑化意識の醸成に貢献している。

[団 体]

---

あいちようすいとちかいりょうく  
愛知用水土地改良区

---

所 在 地	愛知県大府市
代 表 者	理事長 久野 知英 <small>く の ともひで</small>

---

< 功績の概要 >

同団体は、愛知用水の配水管理等を行い、「地域に密着」「水源地に感謝」「上下流域の共生」を基本理念として、水源地である長野県木曾地域の自治体等と連携を図りながら、森林の持つ水源涵養機能に着目して緑化推進に資する多くの活動に精力的に取り組んでいる。

愛知用水の水源地である牧尾ダム建設のための土取場・土捨場の跡地において、昭和41年以降、カラマツ、ヒノキ等を植栽して、下刈り、つる切り及び間伐等の森林整備活動を毎年行ってきた。平成13年からは、水源地域の自治体等が行っている長野県西部地震災害復旧地等への植樹活動にも参加している。

また、平成5年以降、愛知用水の受益地域の団体が実施する水源涵養林育成のための植樹祭・育樹祭へ参加し、植樹活動に加え、事務局として事前準備や苗木の寄付等の支援も行ってきた。こうした活動を、ホームページ等を通じて広く発信するほか、平成17年からは小学生や地域住民等を対象に出前授業や用水施設の見学会を開催し、水の大切さや、森林の持つ水源涵養機能の重要性についての啓発活動を実施するなど、愛知用水上下流域地域の交流、緑化意識の醸成に大きく貢献している。

[団 体]

---

とくていひえいりかつどうほうじん たはらな はな  
特定非営利活動法人 田原菜の花エコネットワーク

---

所 在 地 愛知県田原市  
代 表 者 理事長 柴田 陽助

---

<功績の概要>

同団体は、遊休農地において緑肥となる菜の花を植えて土壌の健全化を図り、農地を新たな担い手に橋渡しする活動を行っている。平成18年の設立以来、これまでに、菜の花で復元した約100か所、13haの遊休農地を新たな担い手に引き継ぎ、持続可能な農業を支えてきた。菜の花で作りに出した美しい農村景観は、「渥美半島菜の花浪漫街道」として国土交通省の日本風景街道に認定されるなど、地域の活性化や観光に寄与している。

また、市民と行政が連携・協働して進める地域資源を活用した緑化活動「菜の花エコプロジェクト」として、収穫した菜種を原料とした食用油を商品化するほか、その生産過程で生じる油かすを堆肥に利用するなど、SDGsに資する活動に取り組み、資源循環型の地域づくりに貢献してきた。

さらに、保育園等では菜の花やヒマワリの栽培を通じた環境学習を実施するほか、小学校では菜の花の種まきから菜種の収穫、選別、搾油に至るまで2年がかりの一連の体験活動を実施するなど、地域と連携しながら子どもたちに緑に親しむ機会を提供し、市民協働や緑化活動への意識醸成を促進している。

[団 体]

---

な は り ち ょ う り つ な は り ち ゚ う が つ こ う  
奈半利町立奈半利中学校

---

所 在 地	高知県安芸郡奈半利町
代 表 者	校長 小松 英也 <small>こまつ ひでや</small>

---

<功績の概要>

同校は、平成 11 年から、近隣の交差点や学校の周辺で生徒が中心となって花壇の管理を行うとともに、地域住民と連携して国道 55 号沿いの環境整備を実施してきた。

同校の生徒会を中心に、生徒と教職員が、近隣の国道や学校の周辺において、花壇の植栽管理や除草、散水、清掃活動等を実施している。これらの活動は、年間 70 日にわたり、町の緑化・美化に大いに貢献してきた。

また、平成 12 年からは、国土交通省のボランティアサポートプログラム「ふれあい海道」として、地元自治体や道路管理者である国と協定を結び、関係者と協力しながら国道 55 号沿いの清掃や緑化を実施している。

さらに、近年は、生徒会が実行委員会となって地域住民とともに町内の緑化・美化活動を推進し、定期的に国道及び周辺公園等の清掃活動を行い、美しい緑で地域を訪れる人々を迎えられるよう活動を行っている。

これらの活動は道路周辺の環境を保つだけでなく、緑化を通して地域住民の交流を促進するとともに、広く緑化意識の醸成に貢献している。

[団 体]

---

おおむたせいぶつあいこうかい  
大牟田生物愛好会

---

所 在 地	福岡県大牟田市
代 表 者	会長 嶋田 雅俊 <small>しまだ まさとし</small>

---

<功績の概要>

同団体は、生物を通じて自然に親しみ、自然を学び、調査研究するとともに、その知識の普及や自然保護に努め、会員相互の親睦を図ることを目的に昭和 44 年に結成された。以来、大牟田市及び周辺地域で、定期的に動植物の観察会や生息調査を継続してきた。学術的な同定・分類に基づきデータをとりまとめ、地域の植物種が平成 3 年からの 12 年間で 87 種も減少したことを明らかにするなど、その活動は地域の自然環境の保全において重要な役割を果たしている。さらに、調査結果を、会報やホームページ、刊行物等に掲載し、広く市民への普及啓発を図ることにより、地域の自然環境の保全に寄与してきた。

また、夏期には小中学生を対象とした観察会や植物・昆虫標本の作製指導を行うほか、平成 15 年からは一般市民を対象とした市主催の環境学習講座の講師を勤め、自然環境の保全に対する市民の理解醸成に貢献している。

また、地域の団体と連携し、市内の里山である三池山の整備・保全活動に取り組み、案内板やマップ、動植物について詳しく解説した自然ガイドブックを作成するなど、地域の里山の保全に尽力している。

[団 体]

---

くまもとしりつよしのしょうがっこう  
熊本市立芳野小学校

---

所在地 熊本県熊本市  
代表者 校長 にしかま西釜 かつひさ勝久

---

<功績の概要>

同校は、大正 10 年に校庭に植樹されたソメイヨシノを「よしの百年桜」と名付け、地域の関係団体である「芳野桜を守る会」の協力のもと、衰え始めていた樹勢を回復するために土壌改良等の処置を行い、その再生・保全に取り組んでいる。また、全校児童を対象に、桜の歴史や保全方法を学ぶ「桜の授業」を実施し、緑化や環境保全活動に対する児童の理解醸成を促進してきた。

熊本地震が発生した平成 28 年には、児童会の発案により、樹木医等の協力を得ながら「よしの百年桜」からの芽接ぎによる育苗を行い、復興支援として、苗木を被災地の小学校に贈呈・植栽する交流を行った。

また、森林管理署と協定を結び、同校に隣接する国有林を「芳野みんなの森」として、PTA と協力しながらアスレチックや小屋等を整備した他、野鳥観察会等を開催するなど、児童が森に親しむ機会を継続的に提供している。

さらに、平成 30 年には環境緑化教育のさらなる広がり と 推進を目指して「芳野小緑の少年団」を結成し、新型コロナウイルス感染症の流行以降も、関係団体と連携しながら近隣の公共施設に花を配布するなど、緑を通じて地域に貢献する活動を積極的に行っている。